

(19) 日本国特許庁 (JP)

(12) 特 許 公 報 (B2)

(11) 特許番号

特許第6182338号
(P6182338)

(45) 発行日 平成29年8月16日 (2017. 8. 16)

(24) 登録日 平成29年7月28日 (2017. 7. 28)

(51) Int. Cl.

E O 4 H 1/02 (2006.01)

F I

E O 4 H 1/02

請求項の数 11 (全 11 頁)

(21) 出願番号 特願2013-66047 (P2013-66047)
 (22) 出願日 平成25年3月27日 (2013. 3. 27)
 (65) 公開番号 特開2014-190028 (P2014-190028A)
 (43) 公開日 平成26年10月6日 (2014. 10. 6)
 審査請求日 平成28年3月10日 (2016. 3. 10)

(73) 特許権者 390037154
 大和ハウス工業株式会社
 大阪府大阪市北区梅田3丁目3番5号
 (74) 代理人 110001586
 特許業務法人アイミー国際特許事務所
 (72) 発明者 駒井 智弘
 大阪府大阪市北区梅田3丁目3番5号 大
 和ハウス工業株式会社内
 (72) 発明者 徳田 幹太
 大阪府大阪市北区梅田3丁目3番5号 大
 和ハウス工業株式会社内
 (72) 発明者 小坂 康充
 大阪府大阪市北区梅田3丁目3番5号 大
 和ハウス工業株式会社内

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 住宅および住宅群

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項 1】

建物を備えた住宅であって、

前記建物は、

各々が所定の厚みを有し、上下方向に間隔をあけて互いに平行に配置される、略同一の
 大きさの四角形状の複数の床スラブと、

前記床スラブの4辺それぞれにおいて、上下方向に隣接する前記床スラブを連結し、各
 辺の両端を余して配置される、四角形状の平面を有する4つの壁体と、

隣接する前記壁体間に形成される4つの隅部とを含み、

前記各隅部は、上下が前記床スラブに挟まれた、四角形状の入隅部であり、

前記各入隅部を構成する2辺それぞれに、光を取り込むための開口部が設けられる、住
 宅。

【請求項 2】

前記壁体と前記入隅部とにより三方が囲まれる、4つの張出し空間と、前記4つの張出
 し空間に囲まれる中央空間とが、それぞれ、住宅機能ごとの機能空間となっている、請求
 項 1 に記載の住宅。

【請求項 3】

各前記機能空間は、ユニット化されている、請求項 2 に記載の住宅。

【請求項 4】

前記入隅部に対応する位置には、それぞれ、方位に合わせて異なった種類の樹木が配置

10

20

される、請求項 1 ~ 3 のいずれかに記載の住宅。

【請求項 5】

前記床スラブは、前記入隅部の箇所に切欠き部を有する、請求項 1 ~ 4 のいずれかに記載の住宅。

【請求項 6】

前記切欠き部に対応する位置に、庭部をさらに備える、請求項 5 に記載の住宅。

【請求項 7】

前記床スラブは、略正形状である、請求項 1 ~ 6 のいずれかに記載の住宅。

【請求項 8】

前記床スラブの各辺の長さは、8 モジュールである、請求項 7 に記載の住宅。

10

【請求項 9】

前記壁体の前記平面の幅は、4 モジュールである、請求項 8 に記載の住宅。

【請求項 10】

前記 4 つの壁体は、前記床スラブの各辺において、中央部分に配置される、請求項 1 ~ 9 のいずれかに記載の住宅。

【請求項 11】

請求項 1 に記載の住宅を複数含む住宅群であって、

隣接する 2 区画それぞれに、前記住宅が配置され、

前記 2 区画の敷地空間にまたがって、共有庭部が形成される、住宅群。

【発明の詳細な説明】

20

【技術分野】

【0001】

本発明は、住宅および住宅群に関し、特に、戸建の住宅および当該住宅を複数含む住宅群に関する。

【背景技術】

【0002】

従来の住宅は、オーナーのニーズや敷地条件に対応して個別に設計されていた。個別設計によれば、プラン構成や部材構成が複雑になりがちである。

【0003】

そこで、間取り設計を単純化した住宅も提案されている。たとえば特許文献 1 には、同じ大きさの矩形形状の第 1 および第 2 のゾーンをずらして配置し、この 2 つのゾーンに挟まれる位置に第 3 のゾーンを配置した住宅において、玄関と勝手口とを入れ替え可能にすることが開示されている。

30

【0004】

また、住宅群における日当たりやプライバシーの保護を考慮し、特許文献 2 には、隣地境界線に対して角度を付けて建物を配置することで、隣接した 4 区画の敷地相互間にまたがる庭空間の集合により住環境生成領域が形成されることが開示されている。

【先行技術文献】

【特許文献】

【0005】

40

【特許文献 1】特開平 7 - 139194 号公報

【特許文献 2】特開 2009 - 155837 号公報

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

【0006】

上記特許文献 1 によれば、居住空間が矩形形状の 2 つのゾーンに完全に分離されるため、開放的な居住空間を造り出すことができない。

【0007】

また、上記特許文献 2 のように、隣地境界線に対し角度を付けて建物を配置するには、建坪に対し敷地面積が十分に広いことが必要とされる。

50

【 0 0 0 8 】

本発明は、上記のような課題を解決するためになされたものであって、その目的は、単純な構成により開放的な居住空間を造ることのできる住宅を提供することである。

【 0 0 0 9 】

また、制約された建築条件であっても快適な居住性を得ることのできる住宅群を提供することも他の目的とする。

【課題を解決するための手段】

【 0 0 1 0 】

この発明のある局面に従う住宅は、建物を備えた住宅であって、建物は、四角形状の平面を有する床部と、床部の平面と平行に配置される、四角形状の平面を有する天井部と、床部および天井部を、各平面の4辺それぞれにおいて連結し、各辺の両端を余して配置される、四角形状の平面を有する4つの壁体とを含む。

10

【 0 0 1 1 】

好ましくは、隣接する壁体間に形成される4つの隅部には、光を取り込むための開口部が設けられる。

【 0 0 1 2 】

好ましくは、4つの隅部のうちの少なくとも1つは、外観上入隅部として形成されている。

【 0 0 1 3 】

好ましくは、4つの隅部全てが入隅部として形成されており、壁体と入隅部とにより三方が囲まれる、4つの張出し空間と、4つの張出し空間に囲まれる中央空間とが、それぞれ、住宅機能ごとの機能空間となっている。上記各機能空間は、ユニット化されていることが望ましい。

20

【 0 0 1 4 】

好ましくは、4つの隅部のうちの少なくとも2つが入隅部として形成されており、入隅部に対応する位置には、それぞれ、方位に合わせて異なった種類の樹木が配置される。

【 0 0 1 5 】

好ましくは、床部は、入隅部の箇所に切欠き部を有する。この場合、切欠き部に対応する位置に、庭部をさらに備えてもよい。

【 0 0 1 6 】

好ましくは、床部および天井部それぞれの平面は、略正形状である。この場合、床部および天井部それぞれの平面の各辺の長さは、8モジュールであることが望ましい。また、壁体の平面の幅は、4モジュールであることが望ましい。

30

【 0 0 1 7 】

好ましくは、4つの壁体は、床部および天井部の各辺において、中央部分に配置される。

【 0 0 1 8 】

この発明の他の局面に従う住宅群は、上記記載の住宅を複数含む住宅群であって、隣接する2区画それぞれに、住宅が配置され、2区画の敷地空間にまたがって、共有庭部が形成される。

40

【発明の効果】

【 0 0 1 9 】

本発明の住宅によれば、単純な構成により開放的な居住空間を造ることができる。

【 0 0 2 0 】

また、本発明の住宅群によれば、制約された建築条件であっても快適な居住性を得ることができる。

【図面の簡単な説明】

【 0 0 2 1 】

【図1】本発明の実施の形態に係る住宅に含まれる建物の構造躯体を模式的に示す斜視図である。

50

【図 2】図 1 の I I - I I 線に沿って切断した場合の建物を模式的に示す模式断面図である。

【図 3】本発明の実施の形態における建物の具体的な構造例を示す外観斜視図である。

【図 4】本発明の実施の形態における建物の第 1 の間取りプラン例を示す模式断面図であり、(A) には建物の 1 階、(B) には建物の 2 階が示されている。

【図 5】本発明の実施の形態における建物の第 2 の間取りプラン例を示す模式断面図であり、建物の 1 階が示されている。

【図 6】本発明の実施の形態において、機能ユニットの構成例を示す概念図である。

【図 7】本発明の実施の形態に係る住宅の構成例を模式的に示す模式断面図である。(A) には建物の 1 階、(B) には建物の 2 階が示されている。

【図 8】本発明の実施の形態に係る住宅群を模式的に示す図である。

【発明を実施するための形態】

【 0 0 2 2 】

本発明の実施の形態について図面を参照しながら詳細に説明する。なお、図中同一または相当部分には同一符号を付してその説明は繰返さない。

【 0 0 2 3 】

(建物の概略構造)

はじめに、本実施の形態に係る住宅に含まれる建物の概略構造について説明する。なお、本実施の形態において、「住宅」とは、敷地全体を表わす。したがって、住宅には、建物だけでなく庭なども含まれる。「建物」とは、土地に定着している構造物を表わす。

【 0 0 2 4 】

図 1 は、本発明の実施の形態に係る住宅に含まれる建物 1 の構造躯体を模式的に示す斜視図である。図 1 には、一例として 2 階建ての建物 1 が示されている。図 2 は、図 1 の I I - I I 線に沿って切断した場合の建物 1 を模式的に示す模式断面図である。

【 0 0 2 5 】

図 1 および図 2 を参照して、建物 1 は、その構造躯体として、第 1 および第 2 の床部 1 1 , 1 2 と、天井部 1 3 と、第 1 ~ 第 4 の壁体 2 1 , 2 2 , 2 3 , 2 4 とを含む。床部 1 1 , 1 2 は、たとえば床スラブに相当する。なお、1 階建ての建物の場合には、第 2 の床部 1 2 は不要である。

【 0 0 2 6 】

床部 1 1 , 1 2 および天井部 1 3 は、それぞれ所定の厚みを有し、かつ、四角形状の平面 1 1 a , 1 2 a , 1 3 a を有している。第 1 の床部 1 1 は、少なくとも上面側が平面であり、天井部 1 3 は、少なくとも下面側が平面である。中間に位置する第 2 の床部 1 2 は、上面および下面ともに平面である。床部 1 1 , 1 2 および天井部 1 3 それぞれの平面 1 1 a , 1 2 a , 1 3 a は、互いにほぼ同スケールである。なお、本実施の形態において「平面」とは、面一の面に限定されず、全体として平面状である部分を表わす。

【 0 0 2 7 】

第 1 ~ 第 4 の壁体 2 1 , 2 2 , 2 3 , 2 4 は、床部 1 1 , 1 2 および天井部 1 3 を、それぞれの平面 1 1 a , 1 2 a , 1 3 a が互いに平行となるように連結する。壁体 2 1 , 2 2 , 2 3 , 2 4 は、各々所定の厚みを有し、かつ、それぞれが四角形状の平面 2 1 a , 2 2 a , 2 3 a , 2 4 a を有している。各壁体 2 1 , 2 2 , 2 3 , 2 4 は、外面および内面ともに平面である。壁体 2 1 , 2 2 , 2 3 , 2 4 の平面 2 1 a , 2 2 a , 2 3 a , 2 4 a は、互いにほぼ同スケールである。

【 0 0 2 8 】

壁体 2 1 , 2 2 , 2 3 , 2 4 は、床部 1 1 , 1 2 および天井部 1 3 を、これらの平面 1 1 a , 1 2 a , 1 3 a の 4 辺それぞれにおいて連結している。また、壁体 2 1 , 2 2 , 2 3 , 2 4 は、床部 1 1 , 1 2 および天井部 1 3 の平面 1 1 a , 1 2 a , 1 3 a の各辺の両端を余すように配置される。具体的には、たとえば第 1 の壁体 2 1 は、第 1 の床部 1 1 の一辺 1 1 1、第 2 の床部 1 2 の一辺 1 2 1 および、天井部 1 3 の一辺 1 3 1 それぞれの中央部分に配置されている。壁体 2 1 は、第 1 の床部 1 1 の上面 1 1 a と天井部 1 3 の下面

10

20

30

40

50

13aとに挟まれるように配置される場合、第1の床部11の辺111および天井部13の辺131には、実際には接していなくてもよい。なお、図1においては、第2の床部12の4辺が4つの壁体21, 22, 23, 24の内面と接する形態を示しているが、各壁体21, 22, 23, 24は、第2の床部12を挟んで上下に分割された形態であってもよい。

【0029】

本実施の形態において、2つの床部11, 12および天井部13それぞれの平面11a, 12a, 13aは、略正方形状であることが望ましい。そうすることで、方位性に問わず、建物1を、様々な形状の敷地に収めることができる。

【0030】

この場合、第1の床部11の各辺111, 112, 113, 114の長さL1は、たとえば8モジュールに対応する長さである。1モジュールは、建物の平面プラン上の一単位であり、たとえば、910mm、あるいは、1000mmとして設定される。つまり、本実施の形態では、床部11, 12および天井部13の平面11a, 12a, 13aは、1辺を略8Pとする正方形状とされている。この場合、各壁体21, 22, 23, 24の幅L2は、たとえば4モジュールに対応する長さである。よって、第1の床部11の各辺のうち、壁体との連結部分を除外した両端部それぞれの長さL3は、2モジュールに対応する長さである。長さL3は、たとえば、第1の床部11の辺111(図1)のうち、第1の壁体21と接しない両端部111a, 111bそれぞれの長さを表わす。

【0031】

上述のような構造によると、4つの壁体21, 22, 23, 24が建物1の四方それぞれの中央部分に集中的に配置されるため、建物1の屋内を壁体レスとすることができる。

【0032】

このような建物1において、隣接する壁体21, 22, 23, 24間には、各階において4つの隅部が形成される。具体的には、図1に示されるように、1階には、隅部31~34が形成され、2階には、隅部41~44が形成される。各隅部には、光を取り込むための開口部が設けられる。開口部には、少なくとも、窓、および、玄関や勝手口のための扉が含まれる。

【0033】

各隅部31~34, 41~44は、外観上入隅部として形成されることが望ましい。図2を参照して、たとえば1階の第1の壁体21と第2の壁体22とで挟まれるコーナー部分の入隅部32は、それぞれの一方端部111b, 112aを2辺とする正方形の他の2辺32a, 32bに対応する位置に形成される。なお、各入隅部の位置は、このような位置に限定されない。たとえば入隅部32の場合、それぞれの一方端部111b, 112aを2辺とする三角形の他の1辺(図示せず)に対応する位置であってもよい。

【0034】

図3は、本発明の実施の形態における建物1の具体的な構造例を示す外観斜視図である。図2および図3を参照して、1階の入隅部31, 32, 33, 34、および、2階の入隅部41, 42, 43, 44には、それぞれ開口部50が設けられている。このように、建物1の4コーナー全てを開口部50とすることで、開放的な屋内空間を造り出すことができるとともに、屋内空間のあらゆる場所に太陽の光が射し込まれる。各入隅部31~34, 41~44において、隣接する開口部50間には、柱2が配置される。

【0035】

なお、図3では、各入隅部全体に開口部50として窓が設けられた例が示されているが、開口部50は、入隅部の一部分のみに設けられてもよい。また、上述のように、本実施の形態では、建物1において各階とも4つの隅部全てを入隅部とし、そこに開口部50を設けた。しかし、各階において、4つの隅部のうちの少なくとも1つについては外観上出隅部とし、そこに開口部50を設けてもよい。外観上入隅部は、たとえば1階の第1の壁体21と第2の壁体22とで挟まれるコーナー部分においては、端部分111b, 112aに対応する位置が出隅部となる。

10

20

30

40

50

【 0 0 3 6 】

図 3 に示したような建物 1 によれば、正面の構成は、単純な面分割による明快なデザインとされる。また、建物 1 は、アプローチの方位や地域性にとらわれない、汎用的かつ普遍的なデザインである。したがって、本実施の形態における建物 1 は、工業化住宅に適している。以下に、図 3 に示したような建物 1 の形状を有効に活用した間取りプラン例について説明する。

【 0 0 3 7 】

(第 1 の間取りプラン例)

図 4 は、本発明の実施の形態における建物 1 の第 1 の間取りプラン例を示す模式断面図であり、図 4 (A) には、建物 1 の 1 階 1 A、図 4 (B) には、建物 1 の 2 階 1 B が示されている。

10

【 0 0 3 8 】

図 4 (A) , (B) を参照して、各階 1 A , 1 B のコア部分 (コア空間) 6 0 , 7 0 に階段が配置され、コア部分 6 0 , 7 0 を中心に周囲の空間 6 1 ~ 6 4 , 7 1 ~ 7 4 が繋がって配置されている。コア部分 6 0 , 7 0 は、後述の中央空間 (図 5 の空間 1 6 0) よりも小さい領域である。第 1 の間取りプラン例では、各階 1 A , 1 B のコア部分 6 0 , 7 0 の周囲に位置する連続空間 6 1 ~ 6 4 , 7 1 ~ 7 4 を適宜仕切りたい場合には、カーテン 6 5 など、開け閉め可能な簡易仕切りが配置されてもよい。

【 0 0 3 9 】

このような場合、1 階 1 A において、コア部分 6 0 を中心として、たとえば、第 1 の壁体 2 1 側の空間 6 1 には玄関、第 2 の壁体 2 2 側の空間 6 2 にはリビング、第 3 の壁体 2 3 側の空間 6 3 にはキッチン、第 4 の壁体 2 4 側の空間 6 4 にはダイニングが配置される。2 階 1 B においては、コア部分 7 0 を中心として、たとえば、第 1 の壁体 2 1 側の空間 7 1 には収納、第 2 の壁体 2 2 側の空間 7 2 には寝室、第 3 の壁体 2 3 側の空間 7 3 にはサニタリー、第 4 の壁体 3 4 側の空間 7 4 には子供部屋が配置される。

20

【 0 0 4 0 】

このように、各階のコア部分 6 0 , 7 0 に階段を配置した場合、建物 1 の形状の対称性、すなわち空間の対称性により、コア部分 6 0 , 7 0 を中心として人の居場所が循環的に移り変わるという特性を有する。なお、建物 1 が 1 階建ての場合は、コア部分には、人の居場所とはならない住宅機能空間として、たとえば収納空間 (クローゼット) を配置してもよい。

30

【 0 0 4 1 】

また、上述のように、本実施の形態では、各階 1 A , 1 B において、4 つの入隅部 3 1 ~ 3 4 , 4 1 ~ 4 4 の全てに開口部 5 0 が設けられている。そのため、図 4 (A) の 2 つの破線矢印および図 4 (B) の 2 つの破線矢印で示されるように、平面視において、建物 1 の長辺および対角線の両方向において、外部への視界を遮るもの (外壁および間仕切り壁) が無い。したがって、屋内のどこにいても外部空間に挟まれるため、住人は外部空間も含めた広がりを感じることができる。つまり、屋内に外部空間を呼び込むことができ、屋内を居心地の良い空間とすることができる。

【 0 0 4 2 】

(第 2 の間取りプラン例)

図 5 は、本発明の実施の形態における建物 1 の第 2 の間取りプラン例を示す模式断面図であり、建物 1 の 1 階 1 A が示されている。

40

【 0 0 4 3 】

図 5 を参照して、本例では、4 つの張出し空間 1 6 1 , 1 6 2 , 1 6 3 , 1 6 4 と、それらに囲まれる中央空間 1 6 0 とが、それぞれ、住宅機能ごとの機能空間として分割されている。各張出し空間は、壁体 2 1 , 2 2 , 2 3 , 2 4 と入隅部 3 1 , 3 2 , 3 3 , 3 4 とにより三方が囲まれた空間である。具体的には、たとえば張出し空間 1 6 1 は、壁体 2 1 と、それに隣接する 2 つの入隅部 3 1 , 3 2 とにより、三方が囲まれている。

【 0 0 4 4 】

50

この場合、たとえば中央空間 1 6 0 はダイニングの機能空間とされる。図 5 においては、張出し空間 1 6 1 はキッチンの機能空間とされ、張出し空間 1 6 2 は、サニタリーの機能空間とされている。張出し空間 1 6 3 は、エントランス（階段）の機能空間とされ、張出し空間 1 6 4 は、リビングの機能空間とされている。

【 0 0 4 5 】

機能空間は、建物 1 の向き（方角）に応じて定められてよい。また、1 階部分においては、建物 1 の向きに応じていずれかの張出し空間の床部を土間にしてもよい。そのようにすることで、所望の機能空間（たとえばリビング）において蓄熱が可能となる。

【 0 0 4 6 】

なお、建物 1 の 2 階の屋内空間においても、中央空間および 4 つの張出し空間に、それぞれ、住宅機能に応じた機能空間を割り当ててもよい。たとえば、中央空間にフリールールの機能空間を配置し、各張出し空間に、階段の機能、収納の機能、および、寝室の機能などを配置してもよい。

10

【 0 0 4 7 】

上述のように、本実施の形態における建物 1 は単純な構造であるため、間取りのバリエーションを多様化することができる。また、敷地対応性の多様化も実現することができる。たとえば、第 1 の間取りプラン例および第 2 の間取りプラン例のいずれにおいても、敷地の方位に応じて建物 1 の向きを変えることで、敷地条件に見合った間取りとすることができる。

【 0 0 4 8 】

20

また、本実施の形態の建物 1 によれば、プラン設計および施工時の両方において効率化を図ることができる。また、部品点数も少なくすることができるため、コスト削減を図ることもできる。

【 0 0 4 9 】

なお、図 5 に示したような機能空間を、それぞれユニット化してもよい。

【 0 0 5 0 】

図 6 は、本発明の実施の形態において、機能ユニットの構成例を示す概念図である。図 6 には、たとえば 1 階部分を構成する複数の機能ユニットとして、ダイニングユニット U 1 6 0、キッチンユニット U 1 6 1、サニタリーユニット U 1 6 2、エントランスユニット U 1 6 3、および、リビングユニット U 1 6 4 が示されている。機能ユニット U 1 6 0 は、図 5 に示した中央空間 1 6 0 に対応しており、機能ユニット U 1 6 1 ~ U 1 6 4 は、それぞれ、図 5 に示した張出し空間 1 6 1 ~ 1 6 4 に対応している。このように、各機能空間をユニット化することで、工業化住宅にさらに適したものとすることができる。この場合、各機能ユニット U 1 6 0 ~ U 1 6 4 を、工場において予め製造することもできる。

30

【 0 0 5 1 】

ここで、本実施の形態では、中央空間の機能ユニット U 1 6 0 のサイズは $4 P \times 4 P$ であり、張出し空間の機能ユニット U 1 6 1 ~ U 1 6 4 のサイズは $4 P \times 2 P$ である。このようなサイズは、各機能空間に適したサイズである。したがって、建物 1 の敷地条件（方位など）に応じて、張出し空間用の機能ユニット U 1 6 1 ~ U 1 6 4 の位置を入れ替えるだけで、建物 1 の屋内を快適な間取りとすることができる。また、各機能空間をユニット化することで、施工時間を大幅に短縮することができる。

40

【 0 0 5 2 】

（住宅の構成例）

次に、上記のような建物 1 を含む住宅の全体構成例について説明する。

【 0 0 5 3 】

図 7 は、本発明の実施の形態に係る住宅の構成例を模式的に示す模式断面図である。図 7（A）には、建物 1 の 1 階 1 A、図 7（B）には、建物 1 の 2 階 1 B が示されている。なお、図 7 では、屋内空間の間取りとして、上記第 1 の間取りプラン例（図 4）が示されているが、間取りは限定されない。

【 0 0 5 4 】

50

図7(A)を参照して、本実施の形態に係る住宅において、建物1の1階1Aの4つの入隅部31, 32, 33, 34に対応する位置には、それぞれ、方位に合わせて異なった種類の樹木301, 302, 303, 304が配置されている。たとえば第1の壁体21側が南、第3の壁体23側が北の方角であると仮定する。この場合、南東に位置する樹木301としては、たとえば入隅部31の開口部50から四季の演出を楽しむことができるような樹木(たとえば落葉樹)が配置される。南西に位置する樹木302としては、たとえば入隅部32の開口部50からの木漏れ日を楽しむことができるような樹木(たとえば観賞用樹木)が配置される。北東に位置する樹木304として、外部からの目隠しとなるような樹木(たとえば常緑樹)が配置される。北西に位置する樹木303としては、たとえば柿の木などの実のなる木を配置することもできる。このように、住宅の4隅に、方位および日照に合わせた庭を作ること、回遊性による景色の変化を楽しむことができる。

10

【0055】

また、1階1Aにおいて、第1の床部11のコーナー部分、すなわち入隅部31~34より外側の箇所には、典型的には、テラス部81が配置される。テラス部81には、テラス、玄関ポーチ、および、ウッドデッキなどが含まれる。ただし、第1の床部11のコーナー部分のうちの少なくとも1つの箇所は、切欠き部82としてもよい。切欠き部82に対応する位置には、庭部300を設けることができる。庭部300に、上記のような樹木が含まれるように構成してもよい。

【0056】

2階1Bにおいては、第2の床部12のコーナー部分、すなわち入隅部41~44より外側の箇所には、典型的には、ベランダ83が配置される。ただし、1階1Aと同様に、これらのうちの少なくとも1つの箇所は切欠き部82としてもよい。そうすることで、2階1Bの切欠き部82の真下のテラス部81に、高さ方向の開放感を出すことができる。このような場合、たとえば、入隅部31の位置のテラス部81を春テラス、入隅部34の位置のテラス部81を夏テラスとして使い分けることもできる。

20

【0057】

以上説明したように、本実施の形態によれば、従来からある住宅をそのまま「標準化」および「工業化」するのではなく、住宅の作り方をそれらに適したものとすることによって、新たな住宅の形や暮らし方を提供することができる。具体的には、建物1の壁面(壁体21~24)と開口部50とを明確に区分し、構成をシンプルにすることで、部材の効率化を図ることができる。また、開口部50を建物1のコーナーにまとめることによって、屋内と屋外との立体的なつながりを可能とする。また、建物1の四隅に開口部50を設けたことによって、方位に適した多様な庭を設けることができる。また、単純化された建物構成は、住まいの機能もユニット化でき、方位にとらわれない住宅の提供を可能とする。

30

【0058】

(住宅群について)

本実施の形態によれば、上述のような住宅を複数含む住宅群を提供することもできる。

【0059】

図8は、本発明の実施の形態に係る住宅群を模式的に示す図である。

40

【0060】

図8を参照して、住宅群には、たとえば、互いに隣接する複数の区画91, 92, 93, 94が含まれる。各区画には、上述の建物1を含む住宅が配置される。建物1は、上述のように4コーナー全てが入隅部であるため、隣り合う建物1において、壁体間の距離L11よりも入隅部間の距離L12の方が大きい。したがって、各区画が、隣り合う建物1の壁体間の距離を大きくとれないような狭い(すなわち建ぺい率が高い)敷地であっても、隣り合う建物1の開口部50(入隅部)間の距離は確保できる。その結果、制約された建築条件であっても、日照、採光および通風条件を良好とすることができる。

【0061】

また、住宅群において、複数区画91~94の敷地空間にまたがる共有庭部100を形

50

成することができる。共有庭部 100 は、たとえば、各住宅において、隣り合う住宅と入隅部同士が対向し合う位置に、図 7 に示した樹木 301 ~ 304 や庭部 300 を配置することで形成される。住宅群にこのような共有庭部 100 を形成することで、各住宅のプライバシーも保護することができる。その結果、快適な居住性を得ることができる。

【0062】

なお、図 8 には、4 つの区画 91 ~ 94 の敷地空間にまたがる共有庭部 100 を示したが、少なくとも 2 つの区画の敷地空間にまたがるものであればよい。また、図 8 には、4 コーナー全てが入隅部とされた建物 1 を示したが、住宅群に含まれる建物は、少なくとも、隣り合う建物の隅部と対向する隅部が、入隅部として形成されていればよい。

【0063】

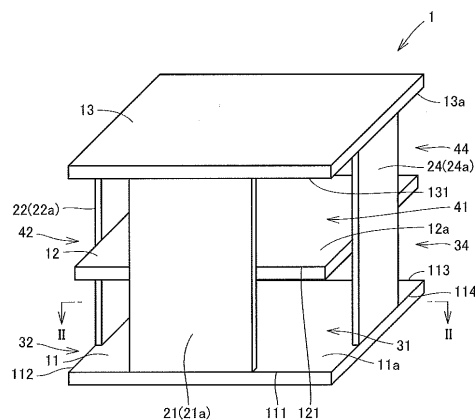
今回開示された実施の形態はすべての点で例示であって制限的なものではないと考えられるべきである。本発明の範囲は上記した説明ではなくて特許請求の範囲によって示され、特許請求の範囲と均等の意味および範囲内でのすべての変更が含まれることが意図される。

【符号の説明】

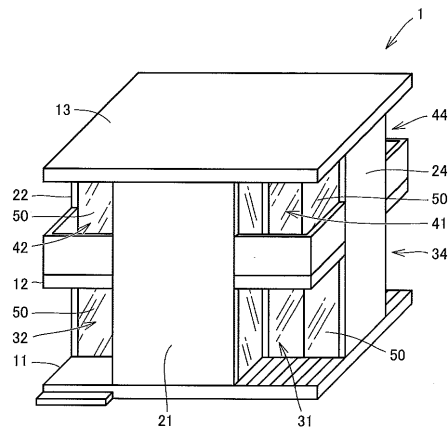
【0064】

1 建物、2 柱、11, 12 床部、13 天井部、21, 22, 23, 24 壁体、31, 32, 33, 34, 41, 42, 43, 44 隅部（入隅部）、50 開口部、60, 70 コア部分、61, 62, 63, 64, 71, 72, 73, 74 連続空間、65 カーテン、81 テラス部、82 切欠き部、83 ベランダ、91, 92, 93, 94 区画、100 共有庭部、160 中央空間、161, 162, 163, 164 張出し空間、U160, U161, U162, U163, U164 機能ユニット、300 庭部、301, 302, 303, 304 樹木。

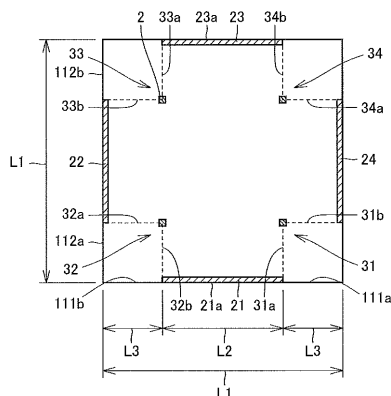
【図 1】



【図 3】



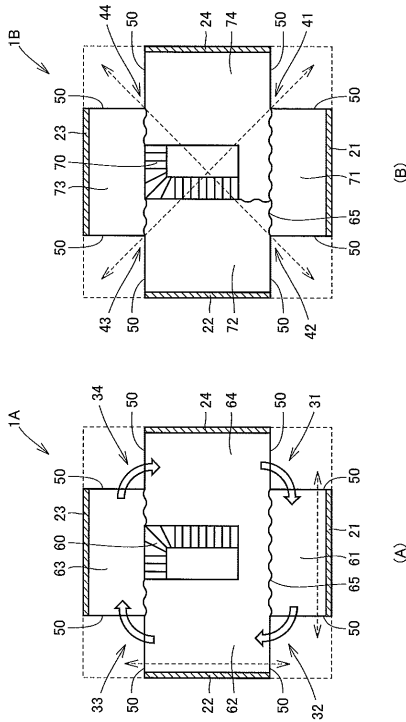
【図 2】



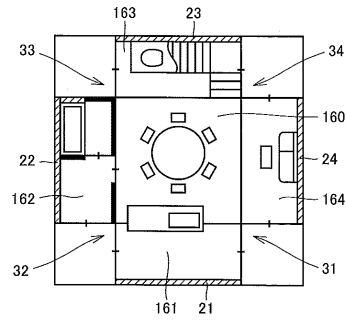
10

20

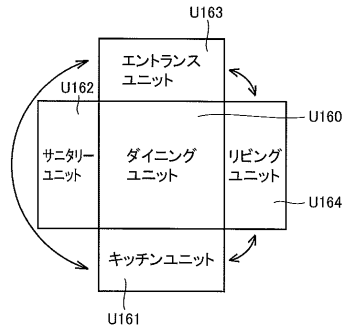
【図 4】



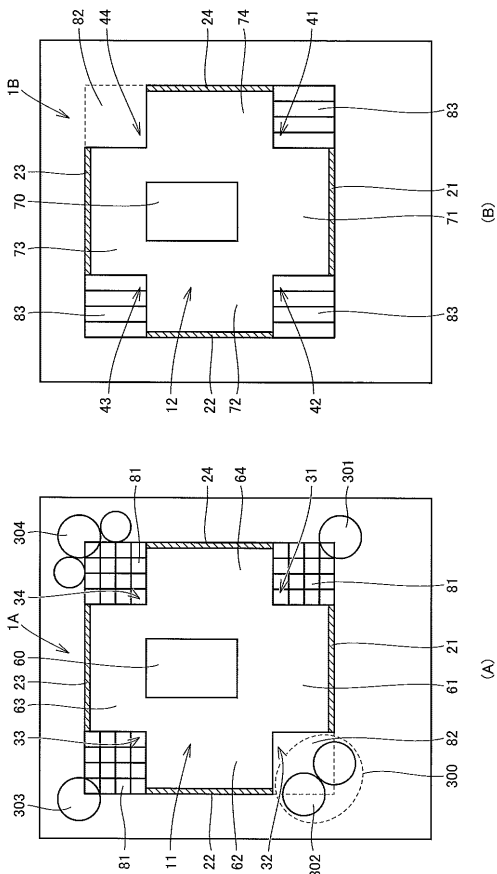
【図 5】



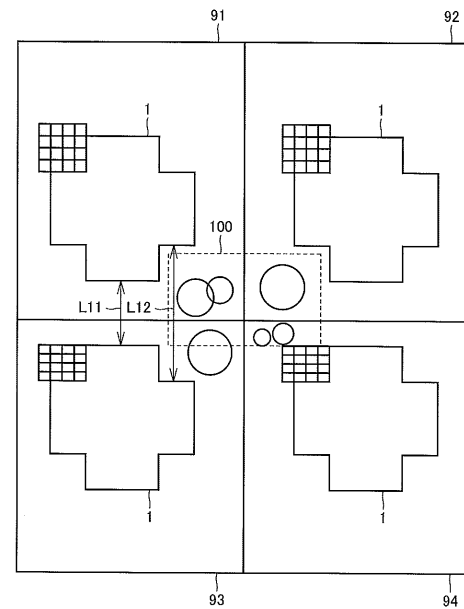
【図 6】



【図 7】



【図 8】



フロントページの続き

- (72)発明者 井内 豊
大阪府大阪市北区梅田3丁目3番5号 大和ハウス工業株式会社内
- (72)発明者 武山 裕
大阪府大阪市北区梅田3丁目3番5号 大和ハウス工業株式会社内
- (72)発明者 吉村 均
大阪府大阪市北区梅田3丁目3番5号 大和ハウス工業株式会社内
- (72)発明者 宮田 莉樹
大阪府大阪市北区梅田3丁目3番5号 大和ハウス工業株式会社内
- (72)発明者 徳永 真理
大阪府大阪市北区梅田3丁目3番5号 大和ハウス工業株式会社内
- (72)発明者 松本 和子
大阪府大阪市北区梅田3丁目3番5号 大和ハウス工業株式会社内
- (72)発明者 齋藤 利咲
大阪府大阪市北区梅田3丁目3番5号 大和ハウス工業株式会社内
- (72)発明者 兵頭 真美
大阪府大阪市北区梅田3丁目3番5号 大和ハウス工業株式会社内
- (72)発明者 箕輪 友理子
大阪府大阪市北区梅田3丁目3番5号 大和ハウス工業株式会社内
- (72)発明者 野口 豊樹
大阪府大阪市北区梅田3丁目3番5号 大和ハウス工業株式会社内
- (72)発明者 佐藤 真也
大阪府大阪市北区梅田3丁目3番5号 大和ハウス工業株式会社内

審査官 新井 夕起子

- (56)参考文献 特開平08-135217(JP, A)
特開昭61-098875(JP, A)
特開昭49-037416(JP, A)
特開2005-226263(JP, A)
特開2009-155837(JP, A)
米国特許第04325205(US, A)

(58)調査した分野(Int.Cl., DB名)

E04H 1/00 - 1/02